

# 令和5年度第3回ISO上層委員会報告会

## 第122回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会  
システム系・国際規格開発ユニット  
中川 梓

# ISO Council (理事会)

## ◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

## ◆ 理事会メンバー機関

### グループ1

AFNOR(仏)(2023)  
ANSI (米)(2023)  
BSI(英) (2024)  
DIN(独) (2023)  
JISC(日)(2025)  
SAC(中) (2025)

### グループ2

NBN (ベルギー)(2023)  
BIS(インド) (2024)  
SA(オーストラリア) (2024)  
ABNT(ブラジル) (2025)  
UNI(イタリア) (2025)

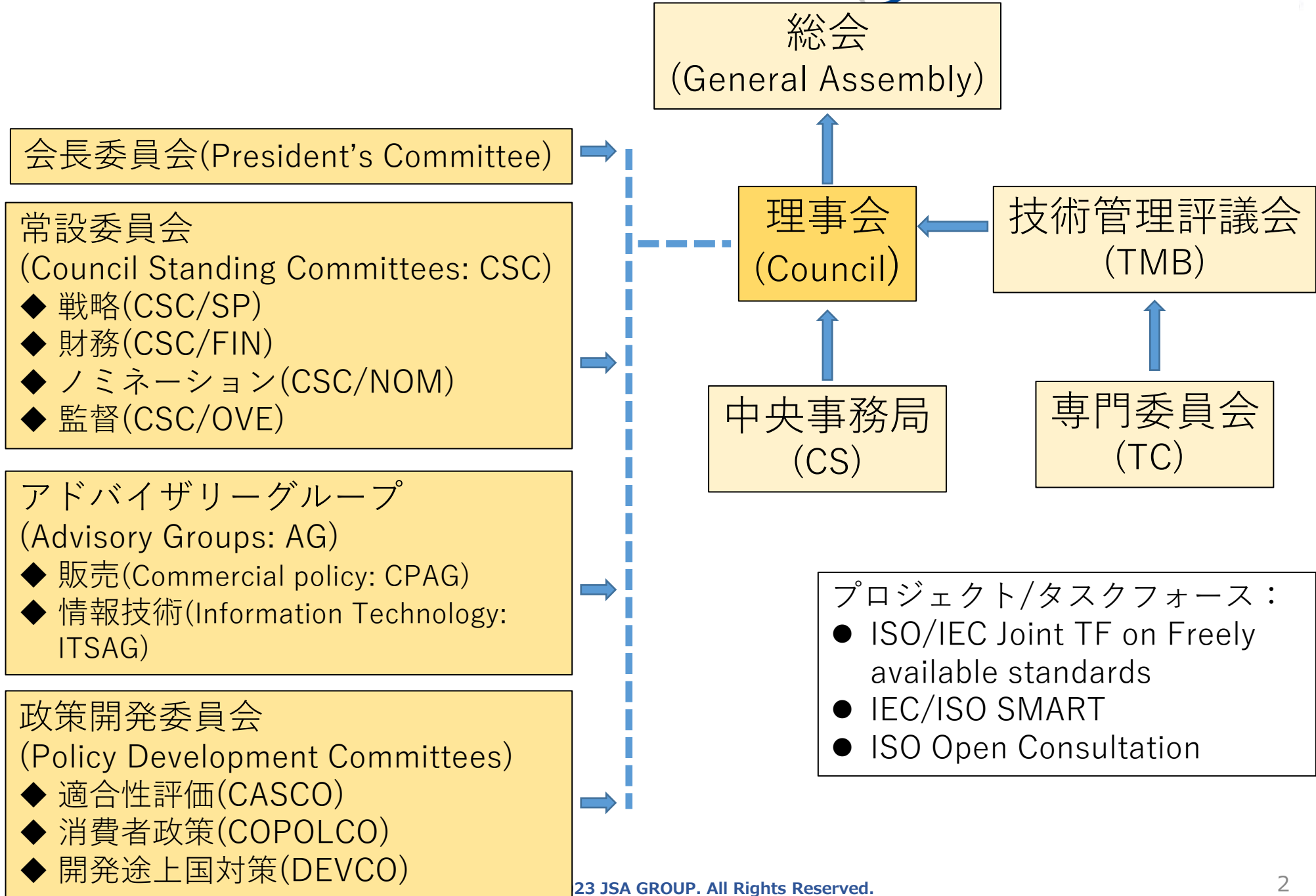
### グループ3

DS(デンマーク) (2023)  
SABS (南ア)(2023)  
DSM(マレーシア) (2024)  
TSE(トルコ)(2024)  
EOS(エジプト)(2025)

### グループ4

IBNORCA(ボリビア)(2023)  
SAZ(ジンバブエ)(2023)  
KEBS(ケニア) (2024)  
INTECO(コスタリカ) (2025)

# ISO Council (理事会)



# 第122回 ISO理事会 及び 関連会合

2023年9月19日	
11:00-12:30	CSC/OVE
2022年9月20日	
09:00-18:00	理事会
2022年9月21日	
13:00-17:00	総会
2022年9月22日	
08:30-09:30	SMART-SG

- 理事会及び関連委員会の会議が、2022年9月19日から21日にかけて、対面で開催された
- 議事を重要/緊急（カテゴリB）とその他の項目(カテゴリA)に区分け。カテゴリAは説明/議論を行わない
- 本資料では、理事会での主な議論、重要事項をご報告する

# 第122回ISO理事会 議題

3	ISO戦略2030の実施 2023年Q2報告 i) 実施計画 ii)測定枠組み		事務総長報告
		16	ISO会長への補償提案
4	2023年Q2中間リスク評価	17	2024-2025年ISO会長特別顧問
5	IEC/ISO SMART規格 進捗報告	18	2022-2023年ISO会長特別顧問最終報告
6	競争法ガイドラインのCPAGによる見直し	19	ISO総会資金の役割分担
7	ISO商標使用方針のCPAGによる見直し	20	政策開発委員会議長の指名
8	IBTポータルの年次評価	21	2025年理事会の日程と会場
9	ITインフラ進化の進捗報告	22	AI
10	マネージドITセキュリティサービスプラットフォーム	23	ISO気候アクション
11	121回理事会議事録	23.1	ISO気候アクション進捗報告
12	総会/前回理事会決議のフォローアップ	23.2	戦略的パートナーシップ進捗報告
13	理事会傘下のグループの2024年業務計画	24	ISO規格へのアクセス
14	2026年ISO総会の日程と会場	24.1	ISO POCOSA 2017 - スポンサーードアクセスに関するガイドライン8の改訂
15	CPAG及びITSAGメンバーの指名	24.2	著作権問題に関する最新情報
		25	その他

## <主な報告事項>

### ■ 社会情勢

- 景気見通し
- 異状気象
  - 世界各地で猛暑記録を更新
  - 欧州では約62000人が酷暑のため死亡。その6割が女性

### ■ ISO戦略2030

- 戦略の見直し
- 持続可能性
- 規格及び規格開発の将来

### ■ 運営状況

- 財務状況、技術活動 (technical activities) など

### ■ 主な活動

- メンバーとのコミュニケーション、地域グループの会合等への参加
- 他の国際組織との関係強化/交流：IEC、IFRS審議会、等

## 議題2～事務総長報告

### 技術活動

- ISO中央事務局における処理時間
  - 2.3か月（2022年：2か月）
  
- 委員会／ワーキンググループの活動
  - 平均開発時間：32.6か月（2021年：30.7か月、2022年：31.8か月）
  - 64.2%の文書が選択したタイムフレーム内で開発（2022年：60.6%、2021年：66.2%）
  - 新規プロジェクトの承認：月平均139件（2022年：128件、2021年：138件）
  
- 会合
  - 対面／ハイブリッド会議が増加：全体の30.4%（2022年：13.1%、2021年：0%）
  - 参加者数：平均19.3名（2022年：20.3名、2021年：21名）

## 議題2～事務総長報告

### ISO戦略2030

- ◆ 戦略の見直し（3年目）
  
- ◆ 持続可能性（サステナビリティ）
  - ISO気候アクション
  - 戦略的パートナーシップ
  - ISOネットゼロ
  
- ◆ 規格及び規格開発の将来
  - IEC/ISO SMART
  - Improved Development Processes
    - SBP、Deliverables/プロセス最適化
    - Online Standards Development (OSD)
  - ISOオープンコンサルテーションプロジェクト



## 我々の展望 Our vision

Making lives easier, safer and better  
生活をより楽に、より安全に、より良く

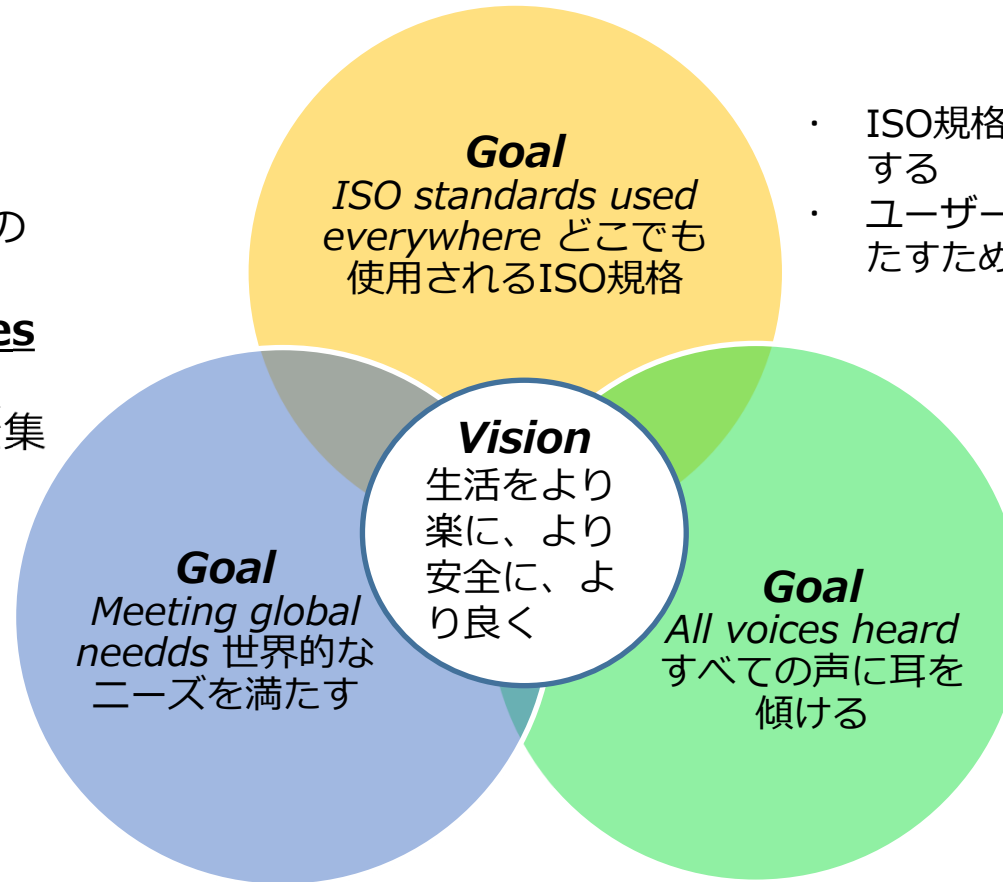
## ◆ 我々のゴール Our goals

展望（Vision）達成のための3つのゴール

## ◆ 我々の優先事項 Our priorities

6つの優先事項。ゴールを達成し、影響力を最大にするため、資源を集中

- ・ 市場で必要な時にISO規格を提供する
- ・ 国際標準化の将来の機会を捉える
- ・ ISO規格を通じ環境持続可能性を推進する



- ・ ISO規格の便益を実証する
- ・ ユーザーのニーズを満たすために革新する

- ・ 能力開発を通じてISO会員を強化する
- ・ ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

<https://www.iso.org/publication/PUB100364.html>

[https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md\\_5150.pdf](https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5150.pdf)

## 議題23.1～ 持続可能性プログラム(Sustainability Programme) 気候対策

### <これまでの経緯>

- 2021年総会で「ロンドン宣言」、それを受け「気候アクション」を展開
- 以下のプロジェクトを展開／展開予定
  1. ロンドン宣言アクションプラン
  2. TMBアクションプラン
  3. COP対応
  4. ISOネットゼロ（今後予定）

### <主な進捗／状況>

1. ロンドン宣言アクションプラン
  - ◆ サステナビリティ戦略的パートナーシップの構築
  - ◆ キャパシティビルディング：開発途上国向けにサステナビリティ関連規格に関して
  - ◆ ISO気候チャンピオンネットワーク:43のNSBから79名のチャンピオンが参加

# 議題23.1～ 持続可能性プログラム(Sustainability Programme) 気候対策

＜主な進捗／状況＞

## 2. TMBアクションプラン

- ◆ 600以上の規格を気候対策に関連するとしてマッピング
- ◆ 改訂すべき優先規格を82特定
  - エネルギー52規格、運輸15規格、建設15規格
  - 気候科学のアドバイザーを雇い、規格改定を支援

## 2. COP対応

- ◆ 気候対策関連での戦略的パートナーシップの構築/強化、ISOブランドの認知度向上、ISO規格の役割/価値への理解の向上、などを目的
- ◆ パビリオン設置－COP28議長国との水素に関するハイレベルイベントなど
- ◆ 重工業分野の脱炭素、エネルギートランジション、気候適応の3分野の規格を紹介
- ◆ ISOメンバーの積極的関与をお願い

## 議題23.2～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

### <背景、経緯>

- 持続可能性に関連する団体との戦略的パートナーシップ構築に向け、事務総長が取り組む（決議 9/2023:2023年2月）
- 優先すべきパートナーの特定、engagement planの提示（2023年6月）

### <主な進捗>

- UNDP
  - 趣意書(letter of intent)署名
  - SDGsマネジメントに関するガイドライン（PAS）を発行(2023年12月目指す)
- Impact Management Platform(IMP)
  - パートナーシップ公表
  - IMPのシステムマップにISO規格を統合させることを検討
- UN System : UNFCCC
  - COP28参加
  - パートナーシップを正式に締結する可能性/価値を検討
- ESG reporting : IFRS/ISSB
  - 包括的な行動計画合意（IFRS基準実施を支援するISO規格のマッピング等）
- Measurement of carbon emissions : WBCSD/WRI (GHG Protocol)
  - GHG排出関連規格をダブルロゴで発行できるように、連携協定を目指す

# 規格及び規格開発の将来

<b>IEC/ISO SMART</b>	
Pilots and scalability	
<b>Digital collaboration</b>	
Online Standard Development	
<b>Improved development processes</b>	
Optimize deliverables	Committee strategy management
<b>Future Challenges and Market Needs</b>	
Foresight framework implementation	ISO Open Consultation

# 議題5～IEC/ISO SMART

## <経緯>

- 2021-2022 :
  - ユースケース、ビジネスモデル、テクニカルソリューションズの3グループで情報収集、分析作業
  - コミュニケーション活動、DEVCO WG設置
  - 適合性評価グループ設置
- 2023-2024 :
  - パイロット/テスト実施

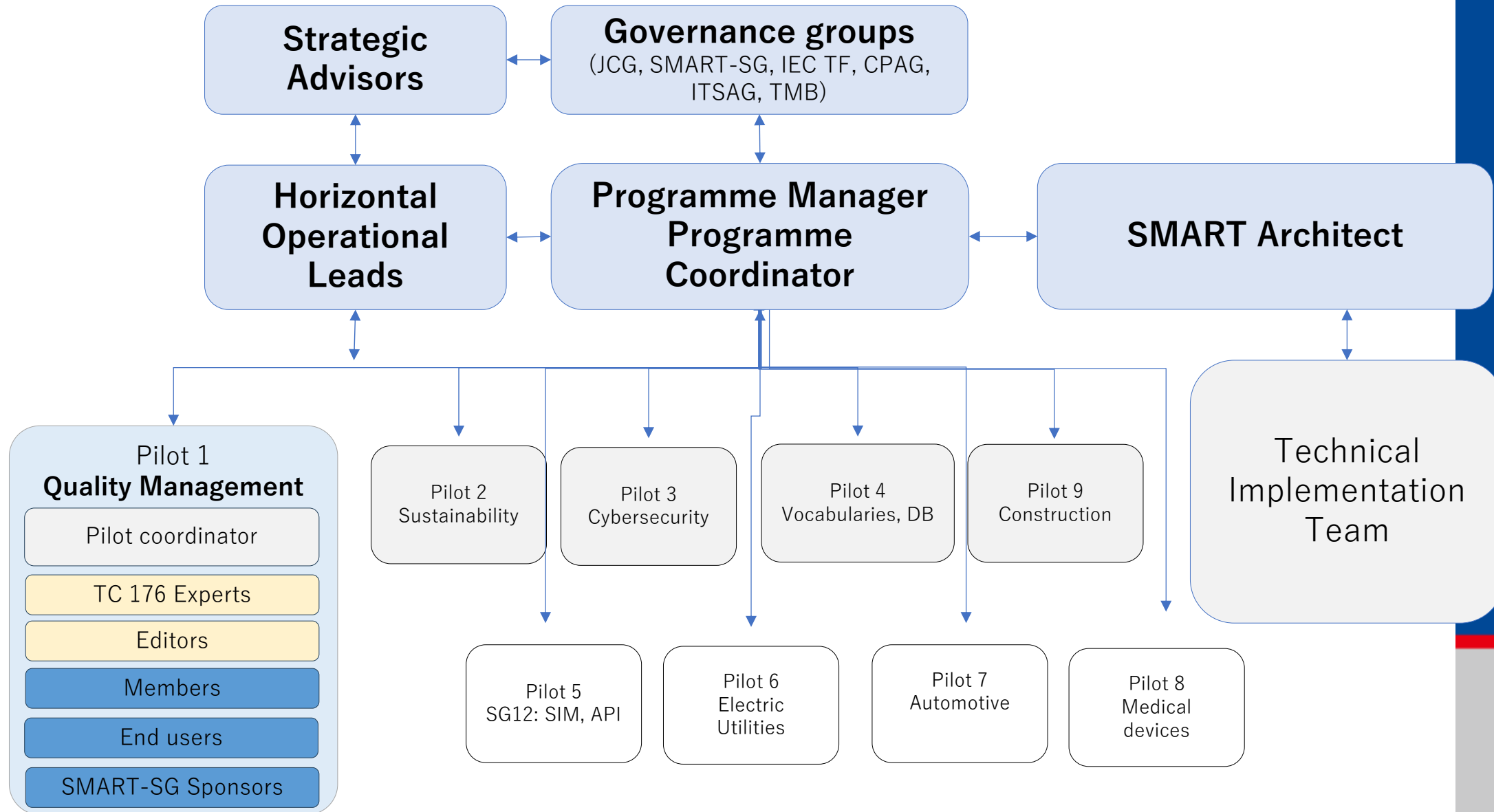
## <パイロットプロジェクト>

- 10件のプロジェクトを開始（IEC/ISOジョイント、ISOリード6件、IECリード4件）
- ISO総会のStrategy Café
  - 初心者：SMARTは未だ完全には理解されていない。各国でのビジネス展開のためにISOから何を求めることができるか、等々
  - 上級者：意思決定が遅い。中小企業がついてこれてない、等々

# 議題5～IEC/ISO SMART

Pilots Sector	Pilot 1 Quality	Pilot 2 Sustainability	Pilot 3 Cybersecurity	Pilot 4 Content types (DBs+Vocab)	Pilot 5 SG12 (SIM, API)	Pilot 6 Electric Utilities	Pilot 7 Automotive	Pilot 8 PEMs devices	Pilot 9 Construction	Pilot 10 SMART authoring
Pilot Objectives	Testing Standards Complexity and Variability in the transformation to a SMART standard.			Testing foundations for SMART: Technology; Vocabulary, Terminology, & Topics		Testing Member and End-user Requirements; Roles & Responsibilities				
Member(s)	Multiple (SSC, SCC, SIS, NEN, UNI)	Multiple (SSC, SIS, ABNT, UNI)	Multiple (SSC, SIS, NEN, ABNT)	Multiple (SN, SIS, NEN, ABNT)	Multiple	NEK	DKE	BSI	AFNOR	DIN
L-Led S-Supported	ISO (L) IEC (S)	ISO (L) IEC (S)	ISO (L) IEC (S)	ISO (L) IEC (S)	IEC (L) ISO (S)	IEC (L) ISO (S)	IEC (L) ISO (S)	IEC (L) ISO (S)	ISO (L) IEC (S)	ISO (L) IEC (S)
Standard(s)	ISO9000 ISO9001 ISO9002 ISO9004 ISO29001	ISO14001 ISO37101 ISO50001 ISO20121 IWA 42	ISO/IEC27002 ISO/IEC27011 ISO/IEC27019	ISO3166 Guide 73 Guide 2 ISO/IEC80000	Multiple / All	<b>P1:</b> IEC61968-4,13, IEC61970-600-2,452, 456 <b>P2:</b> IEC61970-302,453,501,552,IEC61970-600-1	<b>P1:</b> IEC62196, IEC62660	<b>P1:</b> IEC 60601-1,2-24 ISO13485, 14791 <b>P2:</b> IEC62304, 62366	ISO23386 ISO23387 ISO12006-3 ISO16739-1	ISO25119-1 ISO25119-2 ISO25119-3 ISO25119-4
IEC/ISO Use Case	UC259; UC250; UC217; UC226; UC252; UC253; UC219			UC249; UC222	Multiple / All	UC218; UC217,226; UC262; UC229;	UC262; UC217,226; UC222; UC218; UC229; 221	Modularity and Granularity	UC247; UC249; UC252; UC254; UC262; UC218; UC222	UC222, UC217,226

# 議題5～IEC/ISO SMART





# ISO Open Consultation Project

## <背景>

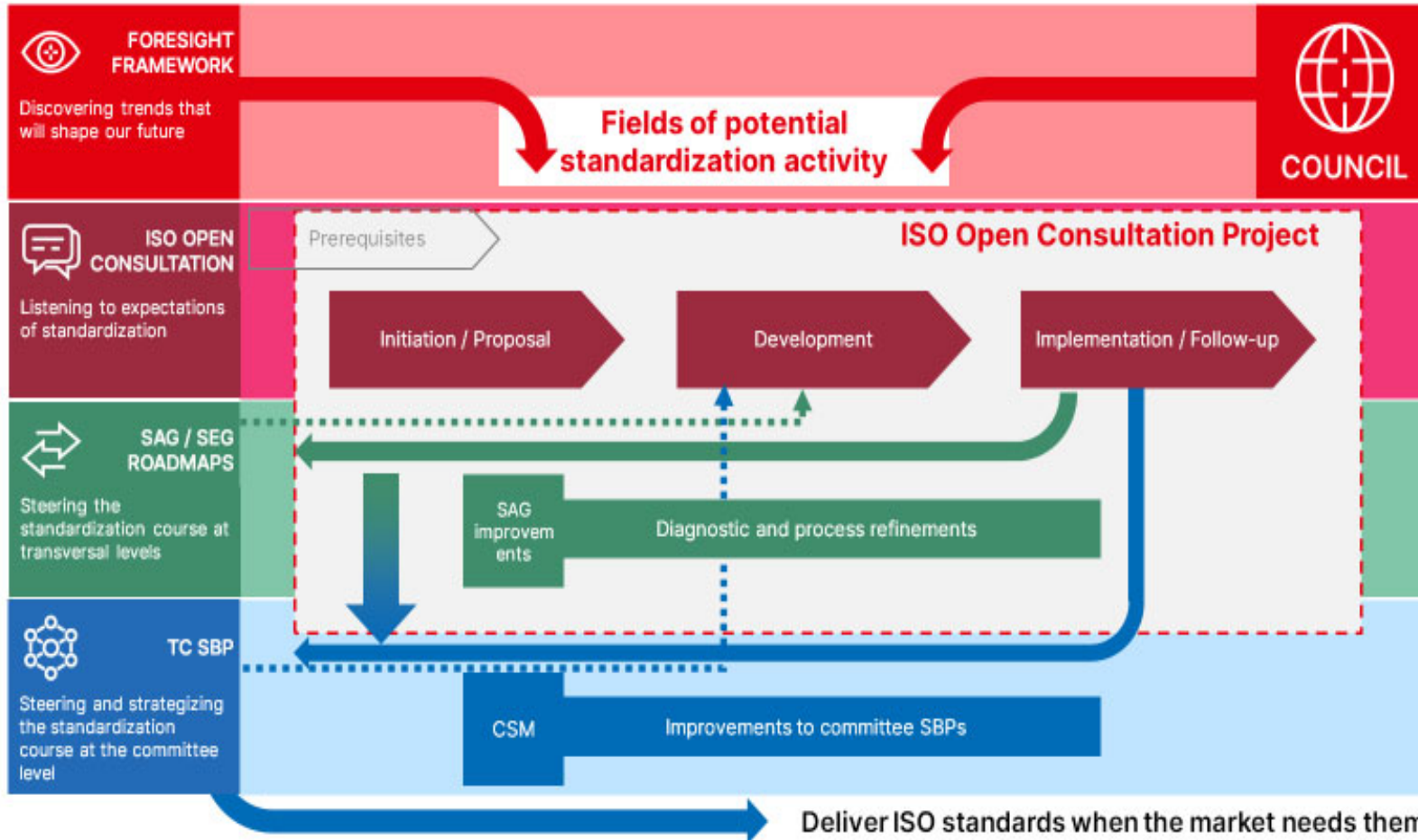
- ISO戦略2030／優先事項「capture future opportunities for standardization」を達成するための4レベルのプロセス
  - 「Standardization Foresight Framework」ートレンドを特定し標準化にどのような影響があるか、標準化活動の可能性のある分野を特定する
  - 「Open Consultation」ーISO外のステークホルダーを巻き込み、新たな活動分野における標準化の期待をとらえる
  - 「SAG/SEG」ーISO内の専門家が横断的に集まり重要なトレンドや相互に関連する事項に取り組む
  - 「委員会戦略マネジメント (SBP)」ーマーケットトレンド／ニーズをよりよく捉えワークプログラムに落とし込む

## <経緯／現状>

- 3段階のプロセスを想定
  - Initiation/proposalーISOメンバー、国際機関、理事会/TMB/PDCなどから提案
  - Developmentーワークショップ等により検討、取りまとめ
  - Follow-up actionー白書発行、SAG/SEG設置、TC設置、等々



# ISO Open Consultation Project



## <ISO/CSによる論点整理>

### ■ ISOの対応／ISO/IEC JTC1/SC42(AI)

- holisticなアプローチ/基礎的な標準から倫理的なものまで幅広く対応
- 外部ステークホルダーとも連携（UN、EC、OECD、等々）

### ■ 機会（opportunity）

- ISOのバリューチェーンで次の3分野で「機会」あり

#### 1. メンバーへのサービス

→ ISOlutionsでの活用、トレーニング資料の作成、Chatbotによる支援

#### 2. 規格開発

→ Authoring：調査、文案作成支援、翻訳

→ Editing：AIによる編集（形式、用語のチェックなど）、コメントの処理、セマンティックエンリッチメント

→ Publishing：品質向上、形式のカスタマイズ、顧客のフィードバックの管理

#### 3. 新しい収益モデル

→ サブスクサービスのカスタマイズ、適合性評価の自動化、SMART規格の活用促進、等々

### ■ リスク管理



# ISO/IEC Joint TF on Freely available standards

## <背景>

- JTC1規格をネット上で無料公開するための基準（1998年）
  - 基準再確認、ITTF（ISO/IEC Information Technology Task Force）に申請（2004年）
  - JTC1要請に基づき、基準を満たさない規格も承認（2006年）
  - 現在、724件公開
- ITTFによる運用に懸念（2019年/TMB）、理事会での議論（2021年9月）
  - IECとJTFを設置、基準及び運用の検討

## <主な議論、内容>

- JTC1の守備範囲のIT関連はコンソーシアム基準がメジャーでそれらは無料公開されている。よって、ISO/IECの競争力が低下
- 無料公開の目的は、ISO/IEC規格の利用／販売の促進
- 規格を売るというビジネスモデルを保ちつつ、競争力も保持するには、商業面及び戦略面から、何を無料公開するか検討する必要がある
- 無料公開の条件とどのように提供するかを議論中
  - 登録制にしユーザー情報の管理を行うべき
  - 全ての規格類を対象とし、JTC1だけに限定せず、統一方針の下で他のTC/SCにも適用可とすべき
  - ISO/IECやNSBのウェブストアで利用できるようにすべき

## 議題24.2～著作権問題

### <背景>

- Malamud (Public.Resource.Org)のケース
  - ECに整合規格4件の無料化を要求したが拒否され、訴訟→敗訴するも控訴（2021年）→判決待ち
- EU法務官意見（2023年6月）
  - 整合規格はEU法の一部で、事実上拘束力があり、法的効力がある
  - 従って無料であるべき、著作権によって保護されない
  - 規格からの収益に依存するのではなく、公的業務の場合は公的資金からSDOが報酬を受け取れるようにしてはどうか

### <主な内容、結果>

- 本件は欧州だけの問題ではない。ISOのビジネスモデルに大きな影響を与える可能性大
- ISO/IECで早々に対応を検討すべき

## 議題16～ISO会長への補償

### <背景>

- ISO会長はCSやISOメンバーに雇用にされていない。指名したメンバーが会議参加等の費用を負担。ISO会長としてのアウトリーチ活動の費用はCSが負担

### <主な内容、結果>

- 開発途上国からの会長擁立を促すため、以下をCSが賄うという提案
  - 会長在任中、年間kCHF50を支給
  - 必要な会議参加、アウトリーチ活動のための費用、
- 提案を承認。2026年任期開始の会長から適用

(決議43/2023)

## 議題19～ISO総会資金の役割分担

### <背景>

- ISO総会の形の変遷
  - 総会やその他会議の対面開催と、テーマ別セッションのオンライン/ハイブリッド開催の組合せ
  - ISOメンバーに加え、幅広いステークホルダーの参加
- 費用が嵩み、ホスト国の負担大

### <主な内容、結果>

- CSより以下の提案
  - 費用の25%以下、200kCHF上限にCSが負担
  - テーマ別セッション用の部屋、バーチャル関連機器の費用等をカバー
- 提案を承認。2025年総会より適用
- ステークホルダーを広げるのはよいが、総会の規模が大きくなりすぎることに懸念

(決議45/2023)

## ご参考～今後の予定

### <理事会>

- 2024年2月 ジュネーブ (スイス)
- 2024年6月 コペンハーゲン (デンマーク)
- 2024年9月 カルタヘナ(コロンビア)
- 2025年2月 ジュネーブ (スイス)
- 2025年6月 サンホセ (コスタリカ)

### <総会>

- 2024年9月 カルタヘナ(コロンビア)
- 2025年9月29日-10月3日 キガリ (ルワンダ)
- 2026年9月 フランス



# ご清聴ありがとうございました

## お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会  
システム系・国際規格開発ユニット

[kokusai@jsa.or.jp](mailto:kokusai@jsa.or.jp)